

宮古木曜会合唱団 第39回定期演奏会

令和4年3月13日(日)

14:00 開演

宮古市民文化会館大ホール

賛助出演：宮古高校音楽部



後援：宮古市芸術文化協会

Harmony for JAPAN

御挨拶

宮古木曜会合唱団団長 川原田隆司

昭和28年、宮古高校音楽部OBにより宮古に初めて混声合唱団が誕生しました。名付けて「コールエコー」。指揮者は当時宮古高校教諭で、同高校歌作曲者としても有名な本田幸八先生です。昭和37年、宮古水産高校OBによる「愛唱会はまなす」と合併統合して、名称を「宮古混声合唱団」とすることに決定。そして昭和41年5月、「宮古混声合唱団」を「宮古木曜会合唱団」と改称し、同年記念すべき第1回定期演奏会が開かれました。この結成時期に団長として、後に指揮者としても活躍されたのが昨年お亡くなりになった善林寺前住職の東館祐宗さんです。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

東館さんは当時の宮古合唱界の歴史を詳細に記録しており、その内容については来年予定の第40回定期演奏会で御紹介しますが、ともかく先人の方々の情熱あふれる御指導、御活躍によって、今日まで木曜会は古今東西の合唱曲を歌い続けてまいりました。

現在世の中はコロナ禍で鬱々とした日々が続いております。更につい最近、あろう事かロシアによるウクライナ侵攻という恐ろしい出来事が起きてしまいました。こんな泣き叫びたくなるような悲しみ、憤りを感じざるを得ない現状で、演奏会を開くということには複雑な思いもいたしますが、鬱蒼とした木立の間から差ししてくる木漏れ日のように、明るい希望を感じさせるような演奏会にしたいと存じます。諸事情により練習不足は否めませんが、団員一同心を込めて演奏いたしますので、皆様、ごゆっくりと御鑑賞ください。

プロフィール

指揮者 佐々木幹雄



岩手県立水沢高等学校、岩手大学教育学部卒業。岩手県教育委員会による現職派遣にて同大学院修了（音楽教育）。声楽、宗教音楽を佐々木正利氏に、指揮を故佐藤功太郎、故中村伸一郎の各氏に学ぶ。高校在学中より合唱指揮を始め、岩手大学在学中は1年次に母高校音楽部を指揮し定期演奏会や全日本合唱コンクール東北大会に出場、2・3年次と2年間岩手大学合唱団のチーフ・コンダクターをつとめる。第3回仙台バッハアカデミー(1988年)では指揮のマスタークラスを修了しヘルムート・リリングのほか若き本山秀毅、大谷研二らに学ぶ。

矢巾町(1990)、旧水沢市(1992)、旧胆沢町(1994)の「第九を歌う会」にてテノール・トレーナー、第30回岩手大学管弦楽団定期演奏会(1990,指揮：田中一嘉)でベートーヴェン作曲「交響曲第9番」や「感謝の第九」(2016,宮古市)の合唱指揮等をつとめる。また「ラ・ボエーム」(2017,奥州市文化会館開館25周年記念事業)、「トスカ」(2022,同30周年記念事業)では合唱指導（合唱指揮：及川貢）を、2018年の盛岡市民文化会館開館20周年記念「スペシャル・ガラ・コンサート」及び2019年の仙台フィルハーモニー管弦楽団もりおか「第九」特別演奏会では市民合唱団（音楽監督：佐々木正利）のコンサートマスターを、さらに毎年のみやこ市民文化祭では舞台部門の合唱と弦楽合奏等による合同演奏の指揮者をつとめるなど、県内各地域に根ざした音楽活動を展開している。

グルッペ・ベッヒライン演奏会ではC. モンテヴェルディ作曲《マニフィカト》(第2回1990年), J. S. バッハ作曲《天より雨と雪が降るごとく》BWV 18(第10回1996年), F. メンデルスゾーン作曲《混声合唱のための3つのモテット》op.69(第24回2011年), W. A. モーツァルト作曲《ミサ・ブレヴィス》KV49(第27回2014年)を指揮し好評を博す。

合唱・アンサンブル活動としては, H. ヴィンシャーマン, K. マズア, P. シュライアー, R. ベック, G. シュマールフス, D. エッティンガー, 飯森範親, 鈴木秀美といった世界的な指揮者の指揮で歌ったり, ドイツバッハゾリステン, エヴァーグリーン交響楽団, セゲド交響楽団, 北西ドイツ管弦楽団, オーケストラ・アンサンブル金沢, 水戸管弦楽団, 山形交響楽団, 岡山フィルハーモニック管弦楽団, 東京バッハ・カンタータ・アンサンブル等とリハーサルや本番とステージを共にしたりするなど, 国内だけでなくドイツ, フランス, 台湾への計十数回にわたる演奏旅行等でも, 声楽家であり合唱指導者である佐々木正利氏のもと, コンサートマスターやステージマネージャーとしても活躍している。

現在は宮古木曜会合唱団(宮古市), 奥州市民Zフィルハーモニー合唱団, 女声合唱団アンサンブル・コンフォーコ(奥州市)の各指揮者の他, 県内各地の高校音楽部の指導, ドイツ・バロック音楽の演奏会やCDの楽曲解説も手がけている。グルッペ・ベッヒライン, 熊友会ヴォーカルアンサンブルの各会員。盛岡バッハ・カンタータ・フェラインのコンサートマスター。2012年から3年間は宮古市立千徳小学校に勤め, 現在は奥州市立常盤小学校教諭(7年目)。盛岡市在住。

指揮者 佐藤由梨



秋田県秋田市出身
山形大学教育学部生涯教育課程音楽文化コース卒業
声楽を小野真弓、藤野祐一、野尻弘子の各氏に師事する。
YCM オペラ本公演にて「コジ・ファン・トゥッテ」ドラベツラ役
アトリオン音楽ホール・コンサートオペラ合唱等に参加
現在、岩手県立宮古高等学校教諭

ピアノ 藤田淑子



ヤマハアカデミー(現ヤマハ音楽院)卒業
これまで小笠原洋子、赤城真理、大久保和歌子各氏に師事
ヤマハ音楽教室講師を経て、現在ヤマハ大人のピアノ教室、
ピアノ教室を主宰
宮古女声コーラスの指導も行っている。

プログラム

第1部 歌の旅～イギリス、ドイツ・オーストリア、イタリア～

混声合唱のための「ホームソングメドレー1・2」より

源田俊一郎 編曲

イギリス編

アニーローリー：スコット 曲 / 藤浦 洸 訳
グリーンスリーブス：イングランド民謡 曲 / 三木おさむ 詞
ロンドンデリーの歌：アイルランド民謡 曲 / 津川圭一 訳

ドイツ・オーストリア編

ローレライ：ジルヒャー 曲 / 近藤朔風 訳
野ばら：シューベルト・ウェルナー 曲 / 近藤朔風 訳
ウィーンわが夢のまち：ズィーチンスキー 曲 / あらかはひろし 訳

イタリア編

サンタ・ルチア：ナポリ民謡 / 小松清 詞
帰れソレントへ：クルティス 作曲 / 徳永政太郎 詞
オーソレミオ：カプア 作曲 / 川路柳虹 詞

指揮：佐藤由梨

ピアノ：藤田淑子

第2部 中世イタリア・ルネサンスの調べ

ミサ・ブレヴィス

パレストリーナ作曲

キリエ（あわれみの讃歌） / グローリア（栄光の讃歌）
クレド（信仰宣言） / サンクトゥス・ベネディクトゥス（感謝の讃歌）
アニュス・デイ I・II（「神の子羊」、平和の讃歌）

指揮：佐々木幹雄

***** 休憩（10分間） *****

第3部 団員が選んだポピュラーソング

1. TOMORROW 岡本真夜・真名杏樹 作詞 / 岡本真夜 作曲 / 山中千佳子 編曲
2. パプリカ 米津玄師 作詞・作曲 / Kiminabe 編曲
3. 青い鳥 安岡 優 作詩 / 北山陽一 作曲 / 横山潤子 編曲
4. YELL 水野良樹（いきものがかり） 作詞・作曲 / 鷹羽弘晃 編曲
5. 見上げてごらん夜の星を 永六輔 作詞 / いずみたく 作曲 / 横山潤子 編曲

指揮：佐藤由梨（1・2・3） / 佐々木幹雄（4・5）

ピアノ：藤田淑子

パレストリーナ 「ミサ・ブレヴィス」解説

花箱充章

「ミサ」はキリスト教最大教派であるカトリックの礼拝ですが、「ミサ」の中で唱えられる祈りの言葉の一部に曲をつけたのが「ミサ曲」です。「ミサ」は1960年代まではあらゆる国でラテン語で執り行われていましたから「ミサ曲」はほとんどがラテン語の歌詞で歌われます。パレストリーナの「ミサ・ブレヴィス」は45歳頃に出版されました。一部を除き4部合唱です。「ブレヴィス」とは「短い」という意味で、演奏時間が短くまとめられた「ミサ曲」を「ミサ・ブレヴィス」というのが普通で、たくさんの作曲家が「ミサ・ブレヴィス」を作っています。ところがパレストリーナの「ミサ・ブレヴィス」は短いと言えば短いのですが、それほどでもない、という見方も根強くあります。「ブレヴィス」は全音符を意味し、曲が全音符で始まるからこの名がついた、という説などもありますが、決定的なものはないようです。

パレストリーナ (イタリア 1525頃～1594)



15世紀中頃から17世紀初め頃までの西洋音楽をルネサンス音楽と呼んでいます。パレストリーナはその時代の最も有名な作曲家と言っていいでしょう。パレストリーナは「ミサ曲」を100曲以上、その他の宗教的作品も大量に残しました。世俗的な曲もたくさん作っていますがあまり演奏されません。若くしてローマの音楽学校や礼拝堂の要職を歴任し、音楽家としては当時のカトリック界最高の地位にありました。しかし経済的にはあまり恵まれず、楽譜の出版に苦労していました。50代半ばにして妻を亡くした時には聖職者になる事を願い出たのですが（カトリックの聖職者は妻帯を認められません）、妻を亡くして約半年後、パレストリーナはおよそ40歳の裕福な未亡人と再婚します。その妻のおかげでやっと彼は経済的な安定を得て、執念を燃やしていた楽譜の出版も進みました。しかしそれでも生前に出版できたのは全作品の3分の1程度だったそうです。

彼は70歳くらいで亡くなりました。葬儀にはローマ中の音楽家ばかりか市民も大勢集まりました。パレストリーナの葬儀に参列したある人物が残した記述の一部を引きます。

「彼の音楽は、聴く者の心に優しく注ぎ込まれ、人の気持ちや感情を、いろいろに変化させる力がある。つまり、失意の心を高揚し、怒りに燃え立つ気持ちを和らげ、悲しみの心に明るさをもたらすのである。」

メンバー紹介

宮古木曜会合唱団

ソプラノ 大久保秀子 富樫亮子 芳賀志津子 吉田真弥子 吉田明生
アルト 伊藤実知子 大坂久子 小林弘江 斉藤絹子 高岩厚子
中村登志江 古館陽子 武藤歩子 宮本正子 村上千賀子
テノール 川原田隆司 藤澤健 舞田寛武
バス 内村義博 木村茂男 花館充章 武藤秀郷 山内健広
ステージマネージャー 高玉智晴

宮古高等学校音楽部

ソプラノ 小野寺美咲 黒坂真璃奈 藤澤亜美
アルト 稲川梨奈 大澤智花 崎尾琉衣 外館陽菜



令和3年3月7日 第38回定期演奏会 宮古市民文化会館大ホールにて

団員募集！

練習日時 毎週木曜日 19:00～21:00

練習会場 山口公民館 会費 2000円/月

問い合わせ : TEL 0193-87-3099 富樫まで